

急拡大するグリーンボンドとは何か？(2)

(国内事例・メリット・概要など)

1. グリーンボンドとは何か？その目的

環境改善に係る大局的な目的としては、気候変動の緩和、気候変動への適応、天然資源の保全、生物学的多様性の保存、汚染の防止と管理の5つがあることが確認されています。国際的又は国家的なイニシアチブにより、グリーンファイナンスの分類・類型化が各地で行われていることに言及されています。そして発行後、重要な進展があった場合の適時の報告の重要性が強調されています。また、「ESG債」などと銘打たれている債券が必ずしもグリーンボンド原則の要素を充足しているわけではないことについて投資家に対し注意喚起されているのが現状であります。今後、欧州ではEUグリーンボンド基準(Green Bond Standards)の策定が予定されておりますので、目を離せない状態だと思います。やはり海外での記事が多いですが2018年に履いてからの主なグリーンボンドにおけるニュースを記載して見ます、初の試みや、その金額の大きさに我が国も追随する可能性があるかと認識できます。

1)2018/04/25

【英国】シティのグリーンファイナンス・タスクフォース、英政府への提言書発表

英シティ・オブ・ロンドン自治体(シティ・オブ・ロンドン・コーポレーション)のグリーンファイナンス・イニシアチブ(GFI)は4月19日、ロンドンを世界のグリーンファイナンスの中心にするための英政府への提言レポート

「Accelerating Green Finance」を発表しました。GFIは2016年に英政府が元シティ・オブ・ロンドン・コーポレーション市長のロジャー・ギフォード氏に委員長を依頼する形で発足。

2)2018/04/22

【米国】米JPモルガン、世界初の新興国債券ESGインデックス「JESG」リリース

金融世界大手米JPモルガンは4月18日、世界初の新興国債券ESGインデックス「JP Morgan ESG index (JESG)」をリリースしました。インデックス開発では米運用大手ブラックロックも協力した模様です。インデックスの運用は、JPモルガンが単独で行うとの事です。JESGは、JPモルガンの既存の債券インデックス「EMBIグローバル」「GBI-EMグローバル・ダイバーシファイド」「CEMBIブロード」の3つに対し、発行体のESG要素を考慮しています。

3)2018/04/16

【欧州】UBS、サステナビリティ100%ファンドをアジア富裕層顧客向けに設定

金融世界大手スイスUBSは4月9日、プライベートバンク事業で、アジア富裕層顧客向けにサステナビリティに特化した金融商品の拡充を行うと発表しました。同社は今年初め欧米富裕層顧客向けのサステナビリティ特化ファンドを設定しアジアでも同様の戦略を展開します。UBSは以前からグリーンファンドを設定していましたが、伝統的投資とグリーン投資の双方を混在する形で運営していました。今回設定するのは、顧客資産100%を環境や社会に配慮した企業の株式及び債券に投資するものです。

4)2018/04/12

【世界】Mission2020、地方政府と企業にグリーンボンド・プレッジへの署名呼びかけ。CDP等も協力
クリスティーナ・フィゲレス元気候変動枠組条約事務局長率いる国際環境NGOネットワーク「Mission2020」は3月20日、ロンドンで開催された気候債券イニシアチブ(CBI)の年次会議の中で、地方政府及び企業にグリーンボンド発行を要求する新たなキャンペーン「グリーンボンド・プレッジ(Green Bond Pledge)」を立ち上げました。

5)2018/04/11

【日本】GPIF、2018年度よりESGレポート発行を計画。ESG観点で投資運用の効果を測定
年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は3月30日に開催した経営委員会で、2018年度からGPIFとしてのESGレポートを発行することを決めました。GPIFはこれまで投資運用の財務パフォーマンスを公表してきましたが、今年度より投資運用の透明性をさらに高めるため、社会や環境に与えた効果を測定、評価し公表する予定です。

6)2018/04/02

【英国】政府グリーンファイナンス・タスクフォース提言書、TCFDのSDGs全体への適用にも言及
英ビジネス・エネルギー・産業戦略省は3月28日、2017年9月に設置した「グリーンファイナンス・タスクフォース」がまとめた英政府への提言書を公表しました。同タスクフォースの議長は、ロジャー・ギフォード前ロンドン市長。委員には、イングランド銀行シニアアドバイザー、ロンドン証券取引所CEO、英環境庁議長の他、HSBC、バークレイズ、グリーン投資銀行(GIB)、リーガル&ジェネラル・インベストメント・マネジメントの幹部等が就いています。

7)2018/03/29

【世界】気候債券イニシアチブCBI、グリーンボンド国債の発行解説レポート発行
グリーンボンド・ガイドライン策定の国際NGOの英CBI(気候債券イニシアチブ)は3月27日、グリーンボンド国債の発行解説レポート「Sovereign Green Bond Principles」を発行しました。同レポートには、過去に発行されたグリーンボンド国債を分析し、今後発行する国に向けてのアドバイスを提示しています。これまでにグリーンボンド国債を発行した国は、ポーランド、フランス、フィジー、ナイジェリア、インドネシア、ベルギーの6ヶ国となっています。

8)2018/03/26

【世界】気候債券イニシアチブCBI、2018年グリーンボンド・パイオニア賞の受賞者発表
グリーンボンド・ガイドライン策定の国際NGOの英CBI(気候債券イニシアチブ)は3月20日、2018年の「年間グリーンボンド・パイオニア賞(GBPA)」の受賞者を発表した。同賞の発表は今年で3年目となります。年間グリーンボンド・パイオニア賞 2018年受賞者 発行額最大の部:フランス政府 累積発行額最大の部:ファニーメイ 新商品の部:グリーン・スクークを発行しました。

9)2018/03/26

【国際】LMAとAPLMA、環境融資の国際ガイドライン「グリーンローン原則(GLP)」策定
英Loan Market Association(LMA)と香港に本部を置くアジア太平洋地域業界団体Asia Pacific Loan Market Association(APLMA)は3月21日、環境分野に用途を限定する融資の国際ガイドライン「グリーンローン原則

(GLP)」を策定しました。策定には、国際資本市場協会(ICMA)も協力した。グリーンボンドについては、ICMAがグリーンボンド原則(GBP)を作成しています。

10)2018/03/22

【国際】IFCとアムンディ、新興国のグリーンボンドを対象とした1500億円ファンド設定

世界銀行グループの国際金融公社(IFC)と資産運用世界大手仏アムンディは3月16日、新興国グリーンボンドを投資対象とするファンド「Amundi Planet Emerging Green One(EGO)」を設定しました。14.2億米ドル(約1,500億円)集まり、世界最大のグリーンボンドファンドとなりました。2025年までに20億米ドル投資する予定であります。同ファンドはルクセンブルク証券取引所に上場しました。

11)2018/03/12

【欧州】欧州委、サステナブルファイナンス・アクションプラン発表。金融・企業報告のEU法改正も視野

欧州委員会は3月8日、サステナブルファイナンスに関する新たなアクションプランを発表しました。同分野では1月30日、欧州委員会が設置した「持続可能な金融についてのハイレベル専門家グループ(HLEG)」が最終報告書を公表しており、今回のアクションプランはそれを受けたものです。HLEG報告書からわずか1ヶ月強というスピード対応で、アクションプラン発表を実現しました。

12)2018/03/07

【香港】政府、グリーンボンド発行計画を公表。最大1.4兆円規模。社債発行助成政策も表明

香港特別行政区政府は2月28日、グリーンボンドを最大1,000億香港ドル(約1.4兆円)発行する計画を明らかにしました。2018年から2019年の発行を予定しています。正式手続のため香港特別行政区立法会での審議に入る予定です。用途は政府による環境プロジェクト実施。香港政府は、香港の金融市場の活性化に取り組んでおり、今回同時に香港での社債発行に助成金を支給する政策も発表。香港政府自身によるグリーンボンド発行は大きな政策の一翼を担うと見られます。

13)2018/03/06

【スペイン】銀行大手BBVA、化石燃料関連資産額開示、RE100・SBT加盟、TCFD情報開示コミットを発表

スペイン金融大手ビルバオ・ビスカヤ・アルヘンタリア銀行(BBVA)は2月28日、気候変動と持続可能な成長に向けた2025年宣言を発表しました。自社の事業運営と銀行としてのファイナンスの両面で気候変動と持続可能な成長を推進していく予定です。ファイナンス面では、2025年までに、グリーンファイナンス、持続可能なインフラ、社会起業、金融インクルージョンの分野に合計1,000億ユーロ(約13兆円)投入します。

14)2018/03/01

【ベルギー】政府、グリーンボンド国債(OLO)45億ユーロ発行。世界6番目の発行国

ベルギー債務管理庁は2月26日、同国初となるグリーンボンド国債(OLO)の発行条件を決定しました。発行額45億ユーロ(約5,900億円)。発行日は3月5日。グリーンボンド国債の発行は、ポーランド、フランス、フィジー、ナイジェリア、インドネシアに次いで6カ国目となります。同グリーンボンドの償還期間は15年で、償還日は2033年4月22日。クーポン1.250%(MS-14bps)。格付はムーディーズAa3、S&PはAAとの事です。

15)2018/02/27

【インドネシア】政府、グリーンボンド国債発行。世界5カ国目、アジアでは初
インドネシア政府は2月22日、米ドル建てグリーンボンド国債を12.5億米ドル(約1,300億円)発行しました。グリーンボンド国債の発行は世界で5カ国目、アジアでは初となる試みであります。またイスラム国家であるインドネシアの国債は、スクーク(イスラム債)の形で発行されるが、グリーン・イスラム国債の発行としても世界初となります。同グリーンボンド国債の償還期間は5年。用途は再生可能エネルギー、環境配慮型交通インフラ、廃棄物管理、グリーンビルディング等。

16)2018/02/21

【フィンランド】年金保険Varma、ポートフォリオのカーボンフットプリントを27%削減達成
フィンランド民間年金保険最大手Varma Mutual Pension Insurance Company(Varma)は2月12日、2017年の投資ポートフォリオのカーボンフットプリント(二酸化炭素排出量)報告書「Carbon Footprint of Varma's Investements 2017」を発行しました。Varmaは2015年、2020年末までに上場株投資のカーボンフットプリントを2015年比25%、社債投資で15%、不動産投資で15%削減する目標を掲げましたが、2017年時点で全て前倒し達成しました。Varmaの運用資産総額は2017年末時点で454億ユーロ(約6兆円)。

17)2018/02/14

【米国】カルスターズ、投資運用での環境リスク統合で2017年報告書発行
カリフォルニア州教職員退職年金基金(CalSTRS)は2月8日、2017年の「グリーン・イニシアチブ・タスクフォース報告書」を発行しました。環境投資に対する昨年の取組状況についてまとめました。カルスターズは毎年同報告書を発表しており、今年が11年目となります。今年の報告書では、カルスターズが2015年に重要と定める4テーマ、「従業員への環境投資教育」「委託先運用会社での環境リスク統合」「環境テーマ投資の増加」「資産配分での環境考慮」について詳述しています。

18)2018/02/13

【中国】CBI、2017年の中国グリーンボンド市場レポート発行。発行額約4兆円
グリーンボンド・ガイドライン策定の国際NGOの英CBI(気候債券イニシアチブ)は2月7日、2017年の中国でのグリーンボンド市場レポート「China Green Bond Market 2017」を発行しました。2017年の国別グリーンボンド発行額は、首位米国424億米ドル(約4.6兆円)に次ぎ、中国が2位で371億米ドル(約4兆円)。そのうち82%はオンショア市場での発行。さらに69%はインターバンク市場での売買でした。

19)2018/02/12

【シンガポール】国際環境NGO14団体がSP大手3銀行に公開書簡。石炭火力発電への投融資停止要求
国際環境NGO14団体は2月7日、シンガポール銀行大手3社に対し、石炭火力発電への投融資停止を求める共同公開書簡を送りました。対象となったのは、DBS、華僑銀行(OCBC)、大華銀行(UOB)。パリ協定のもとで気候変動緩和に向けたアクションを起こすよう求めました。共同書簡を送ったのは、グリーンピース東南アジア(インドネシア)、Friends of the Earth(FoE)オーストラリア、Friends of the Earth(FoE)米国、Friends of the Earth(FoE)日本、WALHI西ジャワ、WALHIインドネシア、バンクトラック、Market Forces、NGO Forum on ADB、CHANGE Vietnam、11.11.11 Belgium、AURIGA Nusantara、GREENID Vietnam、JATAM Indonesia

20)2018/02/07

【スイス】UBS、SDGsファイナンスへの取組を報告。世界銀行や投資家、慈善団体との連携深める
金融世界大手スイスUBSは1月22日、世界経済フォーラム(WEF)年次総会(ダボス会議)に合わせ、2018年の白書「Partnerships for the goals」を発表しました。UBSの昨年の白書の中で、国連持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた大規模なファイナンスを実現することを宣言しております。今年の白書では、2017年の取組を振り返りました。

21)2018/02/01

【欧州】持続可能な金融についてのハイレベル専門家グループ(HLEG)、最終報告書発表
欧州委員会が2016年10月設置した「持続可能な金融についてのハイレベル専門家グループ(HLEG)」は1月30日、EUのサステナブルファイナンスの促進に向けた最終報告書「Sustainable Finance Interim Final Report」を発表しました。報告書には、EUのサステナブル・ファイナンスの現状分析と欧州委員会に対する提言が記載されております。HLEGは、2017年7月に中間報告書を発表しておりました。

22)2018/01/29

【インドネシア】政府、アジア初のグリーンボンド国債発行を予定
インドネシア政府は、グリーンボンド国債の発行を予定している。発行されるとグリーンボンド国債の発行国として5カ国目、アジアでは初となります。イスラム国家であるインドネシアの国債は、スクーク(イスラム債)の形で発行される予定です。同国債のブックランナーには、HSBC、シティグループ、CIMB、アブダビ・イスラム銀行、ドバイ・イスラム基金の5行が選ばれました。債券は米ドル建てです。

23)2018/01/21

【中国】中国人民銀行と中国証監会、世界初の政府制定グリーンボンド評価機関向けガイドライン発表
中国人民銀行と中国証券監督管理委員会(CSRC)は12月27日、グリーンボンドの評価・認証ガイドライン「綠色債券評価認証行為指引(暫定版)」を共同で発行しました。同ガイドラインは、グリーンボンドの第三者評価や認証を行う機関に対する遵守内容を定めています。今後、グリーンボンド基準策定機関として「綠色債券標準委員会」が設置され、同ガイドラインの運用と管理を担う事になります。政府がグリーンボンド評価・認証ガイドラインを制定したのは中国が世界初。

24)2018/01/17

【世界】2017年 世界グリーンボンド市場の概況 ～発行額首位は米国、2位中国～
グリーンボンド基準策定国際NGO気候債券イニシアチブ(CBI)は1月10日、2017年の世界のグリーンボンド発行統計レポート「Green Bond Highlights 2017」を発行しました。CBI基準に適合するグリーンボンド発行額は世界全体で1,555億米ドル(約17兆円)。国別では米国が424億米ドルで首位でした。

25)2018/01/15

【香港】香港品質保証局、グリーンファイナンス認証創設。グリーンボンドやグリーン融資対象
香港品質保証局(HKQAA)は1月3日、グリーンファイナンス認証制度を新たに創設したと発表しました。グリーンボンド等のグリーンファイナンス金融商品のセカンドオピニオンを提供します。香港品質保証局のグリーンファ

イナンス認証は、国際資本市場協会(ICMA)のグリーンボンド原則(GBP)、国連気候変動枠組み条約(UNFCCC)のクリーン開発メカニズム(CDM)、中国人民銀行のグリーンボンド・プロジェクト・カタログ、国際標準化機構(ISO)のISO26000等を参照し設計されました。認証は、発行前認証と発行後認証の2種類が用意され、発行後認証では毎年のレポートを評価対象とします。

26)2018/01/11

【世界】気候債券イニシアチブ(CBI)、グリーンボンド基準(CBS)第3版のパブコメ募集

グリーンボンド・ガイドライン策定の国際NGOのCBI(気候債券イニシアチブ)は12月22日、グリーンボンド基準「Climate Bonds Standard(CBS)」第3版の原案を公表し、パブリックコメントの募集を開始しました。募集締切は2018年2月末。第3版は2018年3月開催の「Climate Bonds Annual Conference」の前日に発表される予定です。現行の第2.1版は2017年1月に発表。グリーンボンドの認証対象を債券以外の負債性資本調達手段にも拡大し、複数回発行のグリーンボンドの認証プロセスに対し「プログラム認証」制度を設けた。プログラム認証制度は、市場関係者から好評を得ているといます。

以上